

## 『実践 小児てんかんの薬物治療』 更新情報

このたびは上記書籍をご購入いただきまして誠にありがとうございます。

本書の p. xvii の表「注意すべき抗てんかん薬の現時点での保険適用」につきましては、現在、下記の情報が最新となっております。ご参考にしていただけますと幸いです。

2022年9月1日現在

株式会社診断と治療社 編集部

### 注意すべき抗てんかん薬の現時点での保険適用（2022年6月現在）

抗てんかん薬	用法の制限	年齢注意 <sup>a</sup>
クロバザム	二次性全般化を含む部分発作，全般発作に対する併用療法	1歳未満
ガバペンチン	二次性全般化を含む部分発作に対する併用療法	3歳未満
トピラマート	二次性全般化を含む部分発作に対する併用療法	2歳未満
ルフィナミド	Lennox-Gastaut 症候群の強直発作，脱力発作に対する併用療法	4歳未満
スチリペントール	Dravet 症候群の間代発作，強直間代発作に対する併用療法	1歳未満
ラモトリギン	二次性全般化を含む部分発作，強直間代発作に対する単剤療法 <sup>b</sup> 定型欠神発作に対する単剤療法 <sup>d</sup> 二次性全般化を含む部分発作，強直間代発作，Lennox-Gastaut 症候群における全般発作に対する併用療法	小児 <sup>c</sup> 15歳以上 2歳未満
レベチラセタム	二次性全般化を含む部分発作に対する単剤療法 二次性全般化を含む部分発作，強直間代発作に対する併用療法	小児 4歳未満
ペランパネル	二次性全般化を含む部分発作に対する単剤療法 二次性全般化を含む部分発作に対する併用療法	12歳未満 4歳未満
ラコサミド	強直間代発作に対する併用療法 二次性全般化を含む部分発作に対する単剤療法	12歳未満 小児
ビガバトリン	二次性全般化を含む部分発作，強直間代発作に対する併用療法 点頭てんかん（West 症候群）に対する単剤療法，併用療法	4歳未満 新生児

保険請求で査定されないようにするため、適用年齢，単剤療法の可否，全般発作への適用の可否（強直間代発作は全般発作を意味する）に注意するが，年齢制限が大幅に変更され，実質的には明らかな制限はなくなっている。

a：年齢注意は，その年齢では国内で臨床試験が行われておらず，その年齢での有効性，安全性は確立していないので使用時には注意する，とされているもの。

b：これのみ，本剤を定型欠神発作以外の小児てんかん患者に用いる場合には，他の抗てんかん薬と併用して使用すること，と明記されている。

c：「小児」の年齢は定義されていない。医療法施行規則でも何歳までと限定することは困難であるとされているが，各種法令では18歳未満が多い。しかし，dは当初15歳未満と明記されていた。

（各製品の添付文書より）